

# 「アースデイとやま 2020」全体報告

## ■はじめに

「アースデイとやま」は 1991 年以降富山県内各地で 5 月前後に毎年開催され、市民の手によるものとしては県内最大の環境啓発イベントとして、環境問題への取り組みや市民団体の連携について様々な成果を上げてきました。しかし、「アースデイとやま 2020」は準備段階の初期から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、5 月末から 9 月末への開催日の変更に始まり、広報戦略や企画内容の変更が相次ぎ、最終的にこれまでにまったく例のない 9 月末のオンライン開催の形での実施に至りました。そのため一度後援をお願いし、ご了解をいただいていた諸団体の皆様方にも後述の理由から辞退の連絡を差し上げることになり、大変ご迷惑をおかけしました。しかしながら、来年度以降の開催において後援をお願いすることが予想されますので、本報告書を提出させていただきます。ご覧いただけすると幸いに存じます。

## ■アースデイとやま 2020 のテーマについて

全世界のアースデイは 1970 年にアメリカ合衆国で開催されたものが第 1 回とされ、今年はその 50 周年となる極めて重要な節目となる年でした。本来であればこれまでのアースデイの流れを振り返るような包括的なテーマのアースデイが世界各地で行われるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の全地球規模の大流行によって、環境問題が地球規模で年々厳しさを増しているにもかかわらず、3 月に予定されていたアースデイ大阪は急遽中止、4 月のアースデイ東京はオンライン開催と、例年とは大幅に異なる状況になったのは大変残念なことでした。

一方、2019 年には富山県内でも市街地へのツキノワグマの出没やイノシシの媒介による豚コレラ症の発生拡大などがあり、日本各地で野生動物をめぐる問題が数多く発生しました。2010 年の「国際生物多様性年」には、アースデイとやまも「ぼくらはみんなで生きている」をテーマとして生物多様性の問題を取り上げましたが、それから 10 年、止むことのない種の絶滅、拡大を続ける外来種問題、動物由来感染症の蔓延など、野生のいのちをめぐる問題はますます深刻になっています。それには地球規模の気候変動、中山間地や里山といった地域での人の営みの衰退が大きな影を落としています。それらはアースデイとやまが繰り返し取り上げてきたものであり、SDGs の中でも、2 (食糧)、9 (産業基盤)、13 (気候変動)、14 (海の豊かさ)、15 (陸の豊かさ) などいくつもの目標に結びついています。私たちは、今年のアースデイとやまのテーマとして、「野生のいのちと、ヒトのくらし。」を取り上げ、生物多様性の保全、野生生物と人間活動の共存に向けて、私たちの暮らしのあり方をさまざまな側面から考えることとしました。こうしてアースデイとやま 2020 は私たちの生活に密着した普遍的な問題を重点的、多面的に取り上げるものになり、地域に根ざした環境啓発に取り組んできたアースデイとやまのテーマとしては、結果的にアースデイ 50 年の節目の年としてもふさわしいものになったと考えています。

## ■アースデイとやま 2020 実行委員会の運営体制について

アースデイとやま 2020 は以下に列挙するように、前年 12 月に準備会を開き、その後対面やオンラインでの実行委員会を今年月 10 月 7 日の反省会まで合計 16 回開催しました。これは、近年

のアースディとやまにおいては他に類を見ない回数になっています\*。それらの開催場所も、サンシップとやま→オンライン開催→くは山荘→再度のオンライン開催→再度のくは山荘と二転三転しており、実行委員会の運営そのものも試行錯誤の連続でした。

実行委員会ではオンライン開催に向けて情報技術の分野に秀でた若い新メンバーを迎えることができ、中心メンバーの高齢化という毎年の課題を 2018 年に引き続き改善することができました。一方、長年にわたり実行委員長を続けられ、“アースディとやまの顔”でもあった本田恭子さんが 6 月 20 日にご逝去され、アースディとやま 2020 に参加していただけなかつたことは、実行委員全員にとって極めて悲しく残念なことでした。しかし、本田さんの精力的な活動によって設立された「一般社団法人環境市民プラットフォームとやま」(以下、PEC とやま) にはアースディとやま 2020 の開催のために多大なご協力をいただき、それがなければ今年の開催は不可能でした。アースディとやま 2020 は、本田さんに支えられた最後のアースディとやまであったと言うことができるかもしれません。

## ■アースディとやま 2020 の広報活動について

アースディとやま 2020 の広報活動は、新型コロナ感染症の影響を非常に大きく受け、実行委員会の運営と同様、試行錯誤の連続でした。プレ企画としてアースディ東京からの呼びかけを受けてアースディとやまを含む各地のアースディにおいて準備されていたアースディ・パレードはことごとく中止されました。初期には例年のようにポスターとチラシでの広報活動を想定し、5 月開催に向けてポスターのデザインに取り組んでいましたが、その印刷中に 9 月への開催、オンライン化が決定したためにポスターの掲示内容が大きく異なったものになり、それらを印刷したシールをポスターに貼って対応するという初めての試みを行いました。チラシについても裏面のデザインの完成間近にそれらの大幅な企画変更があり、例年のようなチラシの作成、配布を急遽取りやめ、開催の直前に比較的簡単なチラシを一部のポスター掲示先に配布するに留りました。

### \*実行委員会開催記録（開催日、場所、人数、主要な議題；( ) 内は決定事項）

準備会：12月4日（水）、サンシップ、6名、2020年の実施の有無、場所、テーマ、開催日
第1回：1月7日（火）、サンシップ、7名、場所、テーマ、開催日（5月31日）、役割分担など
第2回：1月22日（水）、サンシップ、7名、実施計画など作成、アースディ・パレードの実施
第3回：2月5日（水）、サンシップ、6名、実施計画・参加要項作成、事務局（くは山荘）など
第4回：3月1日（日）、サンシップ、7名、アースディ・パレード再考（中止）、ポスター案
第5回：3月18日（水）、サンシップ、9名、開催日延期（9月27日）、説明会（9月13日）
第6回：6月9日（火）、サンシップ、8名、会場でのコロナウイルス感染症対策、Zoom で開催
第7回：6月30日（水）、Zoom、12名（オブザーバー学生2含む）、参加要項、ポスター案など
第8回：7月20日（月）、Zoom、10名（オブザーバー学生2含む）、参加要項、チラシ裏面など
第9回：8月4日（火）、くは山荘、14名、フェスティバル再考（リモート化、午前中は Café）
第10回：8月18日（火）、くは山荘、12名、リモート・アースディ企画検討、ポスター修正
第11回：8月26日（水）、くは山荘、14名、リモート・アースディ企画内容、ホームページ
第12回：9月2日（水）、Zoom、9名、ホームページ、配信形式、関連団体紹介、ポスター配布
第13回：9月9日（水）、Zoom、10名、参加申し込みフォーム、接続テスト・リハーサル日程
第14回：9月16日（水）、Zoom、9名、当日の進行と内容、YouTube での配信など
第15回：9月23日（水）、Zoom、10名、当日の進行と内容、広報活動、動画配信、反省会日程
第16回：10月7日（水）、くは山荘、反省会

一方、長年にわたり使用していたアースディイとやまのホームページが原因不明の事象によって閲覧不能な状況に陥っていたことが準備の初期段階に発覚し、従来の URL を引き継ぐ形で新たなホームページの立ち上げを行いました。これまでのホームページでは、アースディイとやまの長い歴史を示す多数の写真の収集、多くの関係団体のリンクなどがなされており、それらの修復は今後時間をかけて行う必要があります。Facebook も本田さんのご逝去に伴い、管理権限を持った担当者が限られてきており（現在 1 名のみ）、今後の対応が必要です。しかしそのような状況の中でも、ホームページや Facebook はアースディイとやまの広報ツールとして大きな役割を果たしており、次項に示すような幅広い参加者を得ることができました。

## ■アースディイとやま 2020 の当日の取り組みについて

「アースディイとやま 2020」は 2020 年 9 月 27 日に ZOOM を用いたオンライン形式で開催されました。協力団体である PEC とやまの事務所をキー・ステーションとし、テーマである「野生のいのちと、ヒトの暮らし。」を反映した企画を中心に、以下のプログラムで発信を行いました。また、例年の参加団体の一つである NPO 法人バンブー・セーブ・ジ・アースの八ヶ山拠点においてパブリック・ビューイングを行いました。

- ・ 09:30～10:00 オープニング
- ・ 10:00～12:30 第 I 部 「SDGs トークカフェ (\*)『生き物』も生きやすい富山って？」  
(ホスト：PEC とやま；ファシリテーター：鈴木耕平氏)
  - ①キーノートスピーチ 「歴史と生態から、富山の野生生物との共存」  
横畠泰志 氏（アースディイとやま 2020 実行委員長、富山大学教授）
  - ②パネルトーク 「経済活動と生き物（家畜・林業・中山間地）」  
横畠泰志 氏  
石原 喫 氏（山のハム工房ゴーバル代表）  
島田優平 氏（株式会社 島田木材 代表取締役社長）
- ・ 13:00～15:45 第 II 部 「アースディイ・トーク 野生のいのち、ヒトの暮らし。」  
(ホスト：アースディイとやま 2020 実行委員会)
  - A. トーク 1. 「絶滅危惧種を守るために、私たちにできること」  
+富山市ファミリーパーク実況中継 1  
ゲスト：村井仁志 氏（富山市ファミリーパーク動物課長）
  - B. アースディイとやま関連団体紹介コーナー1
  - C. トーク 2. 「野生動物の「害」を考える」 +富山市ファミリーパーク実況中継 2  
ゲスト：大井 徹 氏（石川県立大学教授、日本クマネットワーク前代表）
  - D. アースディイとやま関連団体紹介コーナー2
  - E. トーク 3. 「里山のいのち、ヒトの暮らし」 +富山市ファミリーパーク実況中継 3  
ゲスト：中村浩二 氏（石川県立自然史資料館館長、金沢大学名誉教授）
- ・ 15:45～16:00 クロージング  
(\*SDGs トークカフェは、協力団体である PEC とやまと光教寺によって連続的に開催されており、今回はその 2 回目に当たる)

当団は、心配されていた技術的なトラブルもなく、初めてのオンライン配信による試みとしては成功であったと考えています。オンライン接続による参加者は累計69名で、午前の部の参加者が最も多く（図1）、パブリック・ビュイイング会場での参加者を加えると、100名前後の参加者があったとみられます。午前10時から午後4時までの長めの行事でしたが、最初から最後まで参加いただけた方が多いようでした。例年の数千人規模の参加者数と比較することはできませんが、オンライン参加者の居住地は山形県、福島県から兵庫県、岡山県など、これまでのアースディとやまとは異なり、全国各地に広がっていました（図2）。年齢も特定の層に偏ることなく、さまざまな年代の方を含んでいました（図3）。一方、例年会場の運営に大きな力を発揮していただいている学生を中心としたボランティアの参加はなく、活動を通じて彼らの学びの場を確保することはできませんでした。

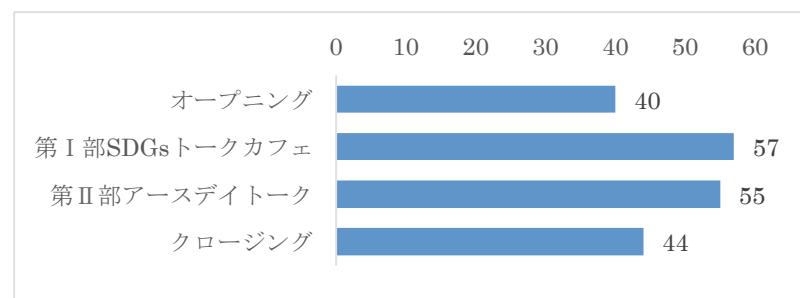


図1. アースディとやま2020の時間帯別オンライン接続者数

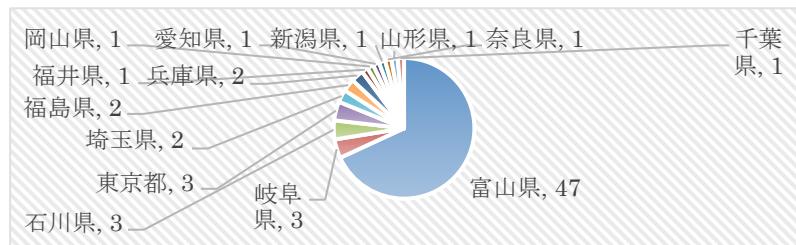


図2. アースディとやま2020の居住地別参加者数

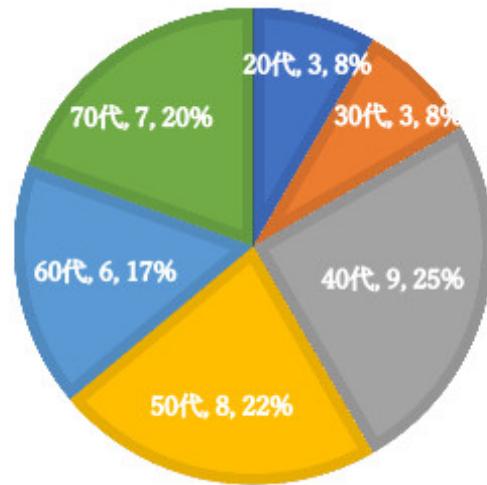


図3. アースディとやま2020の年代別参加者数（36名分）

## ■アースディとやま2020の反省点と今後の展望について

10月7日の反省会では、初めて行ったオンライン開催による得失と、企画内容に対する評価に話題が集まりました。

オンライン開催によって得られた最大の効果は、極めて基本的なことですが、例年とは大きく形態が異なるにしても、アースディとやまを開催することができたという点でした。新型コロナウイルス感染症の影響により、アースディのみならず、環境啓発など人類の持続可能性に貢献しようとする様々なイベントが世界各地で極めて数多く中止に追い込まれる中で、1991年以来継続定に行われていたアースディとやまを今年も困難を乗り越えて開催でいたことは、私たち富山県内の市民の環境意識の高さの証明に他なりません。また、オンラインでの開催については、県内外のどこからでも話が聞けるという大きな長所があり、前述のように日本各地から多くの参加者を得ることができました。参加者からも「楽しかったし世界に発信しても良い内容ではないか」、

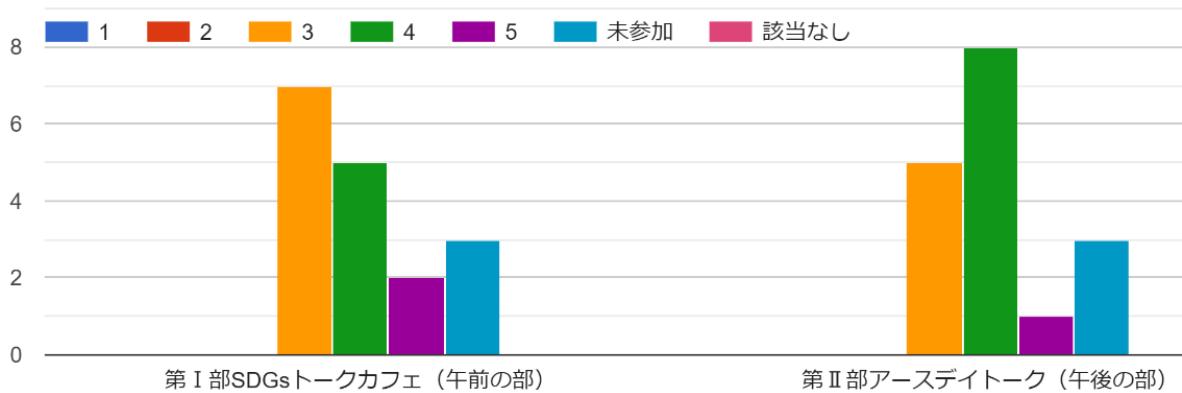


図4. 参加者アンケートによる企画内容の5段階評価（数字が大きいほど高評価）

「いい話だった」という意見が聞かれ、アンケートで午前中と午後の内容を5段階で評価していただいたところ、1や2の低評価は皆無でした（図4）。

一方、午前、午後ともにかなり多くの内容を盛り込んだために、いくつかの課題を残した点は否めませんでした。午前の部では時間配分が過密になり、ファシリテーターの鈴木氏には弾力的な進行をしていただきましたが、一部のゲストの方には十分に発信していただくことができませんでした。そのためか、図4で午後の部に較べて午前の部の評価が低くなっています。午後の部のトークもスライドの画像共有による専門家の講義が続き、聞いていて疲れたという声も聞かれました。また、時間の制約により、それぞれの議論において十分な掘り下げができたかについては課題の残るところとなりました。その中でも、富山市ファミリーパークの実況中継をトークの中で要所ごとに挿入したこと、息抜きのような効果を得ることができました。

午後のトークの間にアースディとやまの関連団体の紹介コーナーを設けましたが、例年のアースディとやまに出展・出店者として参加していただいている方々の参加は、あまり多くありませんでした。学生を中心としたボランティアの参加がなかったこともあり、オンラインでの開催だけを今後も続けることは、アースディとやまが長年をかけて培ってきた大きな財産を失うことになるでしょう。一方、新型コロナウイルス感染症への対応として対面式の行事の代わりにオンライン形式の行事の開催に踏み切った主催団体は全国的に数多く、それらの中にはオンライン形式の利点に気づき、今後対面式の行事が可能になってもオンライン形式も併用する、あるいは対面形式の行事の一部をオンラインでも配信するといった団体が増えていました（図5）。反省会でも、オンラインが良いか対面式が良いかというのではなく、これまでの手法に加えて新しい手法を手

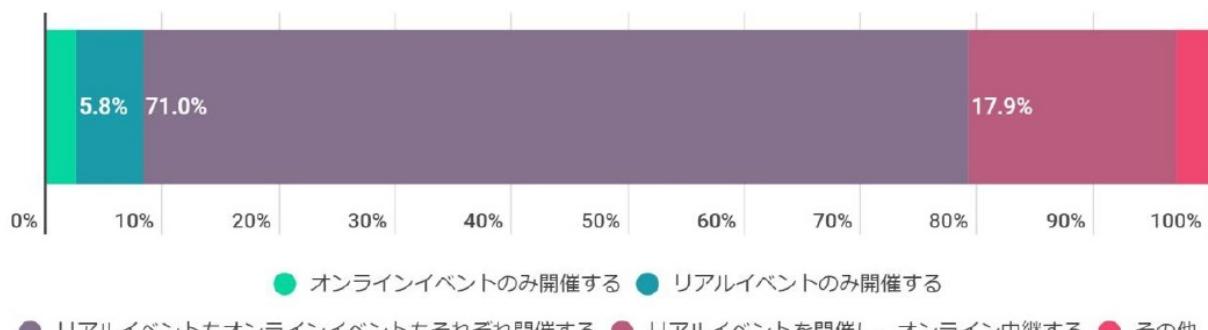


図5. 「現状が改善し、また自由にリアルイベントが開催できるようになったらどうするか」という問い合わせの回答（Peatix Inc. の調査（[https://blog.peatix.com/featured/2020\\_online\\_event\\_survey.html](https://blog.peatix.com/featured/2020_online_event_survey.html)））

に入れ、どちらも使えるように進歩したということなのかもしれないという声もありました。一方で、「上の世代が行っている活動が下の世代に共有されていない状況が見えてきたとも思う」という発言もあり、今後私たちが今回手にした手法をどのように活用していくかが、例年の課題となっている年齢層間のギャップを埋める一つの鍵になるのではないかと考えられます。

## ■会計報告について

最後にアースディとやま 2020 の会計について述べます（表 1、2 および会計監査報告書）。

昨年度からの繰越金は 30 万円ほどでした。今年は参加登録料や富山大学生協からの賛同金がなく、収入は 4 万円ほどにとどまりましたが、一方で支出も大きく抑えられ、特に当日運営費は 0 円であり、総支出額が 10 万円ほどとなりました。来年度の通常の形態での開催には問題のない繰越金を残すことができました。

表 2. アースディとやま 2020 収支（支出の部）

	支 出	2020予算	2020実績
事務局経費	通信費	3,000	2,312
	事務消耗費	3,000	17,077
	事務印刷・コピー費	3,000	100
	会場費(反省会)	24,000	0
	■小計	33,000	19,489
広告宣伝費	ポスター印刷代 *2種	20,000	10,296
	チラシ印刷代*15000枚	16,000	0
	ポスターチラシデザイン料	50,000	50,000
	ホームページ管理費	12,000	12,009
	■小計	98,000	72,305
当日運営費	当日保険料	10,000	0
	ボランティアスタッフ食事・飲料	19,000	0
	備品レンタル料	7,000	0
	出店料・電気代支払い	22,300	0
	ステージ機材レンタル料	0	0
	■小計	58,300	0
実行委員会企画	講師料・交通費	30,000	10,000
	ランチ・飲料用販売食材	15,000	0
	企画関係補助	20,000	0
	■小計	65,000	10,000
雜費	備品代他	3,000	0
	グリーン連合会費	0	0
	振り込み手数料	2,000	1,530
	■小計	5,000	1,530
合計		103,324	
	翌年度繰越	246,790	
総合計		0	350,114

表 1. アースディとやま 2020 収支（収入の部）

	収 入	2020予算	2020実績
賛同金	参加登録料	88,400	0
	一般賛同金	23,800	20,000
	富山大学生協 賛同金	0	0
	富山県生協連合会 後援料	10,000	10,000
	みどり共同購入会 賛同金	10,000	10,000
	環境市民プラットホーム		3,000
	■小計	132,200	43,000
当日収入	実行委員会収益 ランチ・飲料販売	16,800	0
	出店者備品レンタル料	0	0
	出店者売り上げ協力金	22,300	0
	ワークショップ参加費など	2,500	0
	出店者食器・箸のレンタル収入	0	0
	■小計	41,600	
雑収入	かんでんCS エコポイント分入金	0	0
	書籍販売	0	0
	■小計	0	
合計		173,800	43,000
	前年繰越金	307,114	307,114
総合計		480,914	350,114

2020 年 10 月 12 日

アースディとやま 2020 実行委員会

実行委員長 横畠泰志様

「アースディとやま 2020」会計監査について

今年度アースディとやまの会計について、10 月 12 日にみどり共同購入会の事務所で監査を実施しました。その結果、別紙 10 月 12 日付け「アースディとやま 2020 収支」にあるとおりの監査結果であることを報告いたします。

アースディとやま 2020 実行委員会

会計監査 金谷敏行



## 参考資料. 写真ほか



当日のキー・ステーションとなった PEC とやま事務所



スクリーン上に集う各地の参加者たち

石川県立大学 大井 徹教授によるトークの画面



午前の部「SDGs トーカー・カフェ」のグラフィック・レコーディング（画：奥野美里さん）